

【様式】

令和2年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 桑名高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>普通科、理数科、衛生看護科、衛生看護専攻科および定時制課程を設置する本校の特色を生かし、「<b>桑名から 強くはばたく 人づくり</b>」を目指します。</p> <p>そのために</p> <p>① 地域社会や保護者の多様なニーズに応じて、桑員を支える学校の責務を果たします。</p> <p>② 課程、学科の特色を生かして、多様で魅力ある学校をつくります。</p> <p>③ 長い歴史と伝統を強みとして、公教育への信頼を一層向上させます。</p>
		<p><b>★桑名から</b></p> <p>① 桑員地域の中学生が最も憧れる高校</p> <p><b>★強くはばたく</b></p> <p>② 地球の未来への先駆者となる科学技術人材になれるよう、生徒が充実した学力や技能を獲得し、学ぶ意欲にあふれている状態</p> <p>③ 生徒が部活動などの自主的な活動を通じてリーダーシップと協調性を兼ね備えている状態</p>
(2)	育みたい 児童生徒像	<p><b>★桑名から</b></p> <p>① 桑員地域の中学生が最も憧れる高校</p> <p><b>★強くはばたく</b></p> <p>② 地球の未来への先駆者となる科学技術人材になれるよう、生徒が充実した学力や技能を獲得し、学ぶ意欲にあふれている状態</p> <p>③ 生徒が部活動などの自主的な活動を通じてリーダーシップと協調性を兼ね備えている状態</p>
	ありたい 教職員像	<p><b>★人づくり</b></p> <p>④ 生徒の思考力・発信力を高め、豊かな人間性を育む教育実践を行っている状態</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><b>○生徒</b> 学力向上・充実したクラブ活動・楽しい学校・希望進路の実現</p> <p><b>○保護者</b> 社会性・安心安全・学力向上・クラブ活動・希望進路の実現・社会的自立・楽しめる学校 ・一人ひとりを大切にする学校</p> <p><b>○地域社会</b> 地域の誇りとなるリーダーシップや協調性を持つ人材育成や社会貢献</p>	
	<p>連携する相手からの要望・期待</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p><b>○大学</b> 知的好奇心やコミュニケーション能力の高い生徒の育成</p> <p><b>○中学校</b> 特色の明確化、中学校への情報提供</p> <p><b>○教育産業</b> ニーズの明確化</p> <p><b>○保護者</b> 学校の現状・方針等の情報提供と参画の機会</p> <p><b>○地域社会</b> 地域活動への参加</p> <p><b>○病院等</b> 地域医療への関心</p>	<p style="text-align: center;">連携する相手への要望・期待</p> <p><b>○大学</b> 高大連携による情報提供</p> <p><b>○中学校</b> 中高連携による意思疎通</p> <p><b>○教育産業</b> ニーズに合った情報提供</p> <p><b>○保護者</b> 学校と連携した家庭教育</p> <p><b>○地域社会</b> 地域の教育力の活用</p> <p><b>○病院等</b> 学校との密接な連携</p>

(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸課題の改善に向けてICTの活用をうまく進めて、時間的効率化を図ることであり、生み出された時間で何をするかを考えることが大事である。共通の活動目標を掲げるAKPと総務部がドッキングして何かをやっていくとよい。</li> <li>・外部と連携して力を借りることである。大学や地域人材だけでなく、卒業生の活用も重要。また、中学校に目を向けて中学生に対して在校生が学校を紹介していくことで生徒自身が自らの位置づけを明確にできるという学習効果がある。</li> <li>・学習者自身を活用することである。グループ学習の中で互いを支援し合うことで生徒は受け身の「存在」ではなく主体的な「学習指導の協力者」になり得る。</li> <li>・生徒指導で朝校門に立ち、生徒たちに挨拶や声かけをすることはとてもよい。声をかけられ、他者から存在を認めってもらうことは生徒たちの成長につながる。</li> <li>・SSHのねらいに「グローバル」を掲げているが、科学的研究だけではなく、もっと幅広いソーシャルな面も大事にしていてもらいたい。</li> <li>・看護職は厳しい現場である。就職して3年もしないうちに辞めてしまうような人も少なくない。学校で将来設計を見据える教育をしてもらうことを期待する。</li> <li>・LGBTについて考えるとともに、現在の制服について一考してもらいたい。</li> <li>・会議時間短縮の工夫の一つは、言いたいことを端的にわかりやすく伝えるよう心がけることである。</li> </ul>			
		<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">(4) 現状と課題</td> <td>教育活動</td> <td>今後は「カリキュラム・マネジメント」を視野に入れながら今一度「目指す学校像」「育みたい生徒像」「ありたい教職員像」等について再検討し、深めていくところから取り組んでいく必要がある。</td> </tr> <tr> <td>学校運営等</td> <td>教育活動の充実を推し進める中で年々多忙化している現状から抜け出すためにも業務内容の精選等をして教職員が「働きやすさ」を実感できるようにしていくことが課題である。</td> </tr> </table>	(4) 現状と課題	教育活動	今後は「カリキュラム・マネジメント」を視野に入れながら今一度「目指す学校像」「育みたい生徒像」「ありたい教職員像」等について再検討し、深めていくところから取り組んでいく必要がある。
(4) 現状と課題	教育活動	今後は「カリキュラム・マネジメント」を視野に入れながら今一度「目指す学校像」「育みたい生徒像」「ありたい教職員像」等について再検討し、深めていくところから取り組んでいく必要がある。			
	学校運営等	教育活動の充実を推し進める中で年々多忙化している現状から抜け出すためにも業務内容の精選等をして教職員が「働きやすさ」を実感できるようにしていくことが課題である。			

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒の主体的で深い学びを実現し、確かな学力の向上を図るため、<b>教科指導の充実と授業改善</b>を進めます。</li> <li>② 入学から卒業までを見通した進路指導により、生徒の進路希望の実現を図るとともに、勤労観や職業観を身につける<b>キャリア教育を体系的に推進</b>します。</li> <li>③ 他者を思いやる心、生命・人権を尊重する心、政治的教養、規範意識などを育む教育の充実に努め、生徒の<b>豊かな人格形成</b>に取り組みます。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教職員の助け合い・教え合いの文化を育み、教職員が一丸となって取り組む<b>組織力ある学校づくり</b>を推進します。</li> <li>② 学校・家庭・地域等との連携を強化し、本校の教育活動を広く地域に発信し、<b>開かれた学校づくり</b>に努めます。</li> <li>③ 総勤務時間縮減に向けた取組や教職員の満足度向上に向けた取組を通して、教職員が創造性を発揮し、情熱とやりがいを持って生徒と向き合い、<b>指導に専念できる環境づくり</b>に取り組みます。</li> </ul>

## 4 本年度の行動計画と評価

### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p><b>重点①</b> 教科指導の充実と授業改善</p> <p><b>重点②</b> キャリア教育を体系的に推進</p> <p><b>重点③</b> 豊かな人格形成</p>	<p><b>&lt;教務部&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の変化に対応した「主体的な学び」を実現する教育活動の充実を図るために各教科の実践活動を支援します。</li> <li>・課題研究的な要素を取り入れた「探究Ⅰ～Ⅲ」、「研究Ⅰ～Ⅲ」の授業計画を、SSH部との連携をこれまで以上に深めて実践することにより、生徒間の対話をいっそう深めるだけでなく生徒自身のさらなる気づきも促します。加えて、思考力・発信力をより高め、協調性とリーダーシップを兼ね備えた人格形成も目指します。</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「探究」、「研究」の自主活動を通して、対話と気づきが大切であること実感させるとともに、「主体的な学び」を実現する講演会を実施します。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「探究」、「研究」を振り返った生徒アンケートの中で、「この授業を通じて自身の成長が図られましたか」の項目で「はい」を選択する生徒の割合を80%以上にします。</li> </ul> <p><b>&lt;SSH部&gt;</b></p> <p><b>【取組内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球規模の社会問題を解決するプロセスを通じて、全ての生徒が高い志を持ち、様々な課題に対して自ら考え挑戦し、未来を切り拓く力(課題探究能力)を育成します。</li> <li>・地球の未来への先駆者となる科学技術人材を創出します。(桑高SGPプログラム)</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>普通科は「探究Ⅰ」、「探究Ⅱ」理数科は「研究Ⅰ」、「研究Ⅱ」衛生看護科専攻科2年生は「看護の統合と実践」において課題研究に系統的に取り組み、SDGsの17の目標に対し生徒が主体的に課題を設定する活動を実施します。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新しい科学的発見について」、「協力して物事を解決する力の向上」、「楽しんで研究に取り組んだ」等の生徒の主体性に係る部分をアンケート調査し、肯定的な意見の合計割合が70%以上を目指します。</li> </ul>	<p><b>&lt;教務部&gt;</b></p> <p>今年度は、予想できなかった社会の大きな変化に伴い、当初計画していた「主体的な学び」を実現する教育活動を必ずしも100%実施できたわけではない。講演会や発表会もかなりの制約の中での開催となった。しかし、限られた時間と条件の中、「探究」「研究」での講義や実践活動を通して、「他の人と協力して物事を解決していく力が向上した」と感じている生徒は約8割である等取組の成果がでてしていると判断できる。</p> <p><b>&lt;SSH部&gt;</b></p> <p>SSH活動2年目となる本年は昨年度構築した様々な生徒活動プログラム、指導内容のバージョンアップを行い、さらに深い探究活動を行うことができた。評価の面においてもルーブリック、ポートフォリオ評価の改良に着手し、一歩進んだ生徒評価を開発した。その結果として、コロナ禍で活動内容の大幅な制限を余儀なくされる状態であったが、日本生物学オリンピック銀賞受賞、日本数学コンクール優秀賞受賞、名大みらい育成プロジェクト最終選考選抜など、昨年以上の活動、実績を残すことができた。</p>	◎

< 1 学年 >

【活動指標】

- ・新入生オリエンテーションなどの初期指導と個人面談によるきめ細やかな指導を行うことで基本的な生活習慣と学習習慣の定着を図ります。また、学年集会や各種ガイダンスなどにより進路意識を育てます。
- ・定期考査や模試後には結果を分析し、学年集会などで生徒に伝えることで、学習への意識改善と指導の見直しを図ります。
- ・教科と連携し、時期に応じて成績層別指導を行い、学習意欲、進路意識を高めます。

【成果指標】

- ・学習状況調査を定期的実施し、学習習慣の定着を確認します。(平日2時間以上、休日4時間以上学習している生徒が、全体の50%以上になることを目指します。)
- ・11月実施の進路協議会で普通科と理数科生徒が各自のキャリア(職業選択)を視野に入れた的確な文理選択及び志望校選択が行われているかを確認します。
- ・12月実施の看護科の実習で、その取組の中から進路意識の高揚を確認します。

< 2 学年 >

【活動指標】

- ・中核学年として、学校行事や部活動において中心的役割を自覚させ、責任感を持って行動できる判断力を育てます。また、分掌と連携して課題研究や進路研究を指導し、積極性や高い進路意識を育てます。
- ・2学年の課題である「学習の中だるみ」を最小限に迎えるために、学年集会、通信、個人面談等で学習方法の改善や学習時間確保を指導します。
- ・定期考査、模試等の成績分析から定着度が低い分野を把握し、指導の見直しを図ります。
- ・教科と連携して、適切な時期に成績層別指導を行い、学習意欲を高めます。

【成果指標】

- ・学習状況調査を定期的実施し、学習習慣の定着を確認します。(平日2時間以上、休日4時間以上学習している生徒が、全体の50%以上になることを目指します。)
- ・11月実施の進路協議会で普通科・理数科生徒の的確な科目選択および志望校選択が行われているかを検証することで、進路意識の高揚を目指します。
- ・看護科臨地実習における医療現場の学びから、進路意識の高揚を目指します。

< 1 学年 >

新型コロナウイルス感染拡大の中、入学式を含め5日間のみ登校を経て休業に入った。5月末の学校再開まではオンラインでのSHR・授業、プリントでの課題などで学校活動を補ったが、生徒に確かな学力を身に付けさせるのに苦慮した。

再開後は密を避ける工夫をした中での学年集会・各種ガイダンスを行う等、コース科目選択に向けて進路意識を高めることに努めた。

学習状況調査(9月)の結果は、平日平均2時間以上が54.7%・休日平均4時間以上が49.0%と目標達成までもう少しであった。生徒へのはたらかかけをさらに行い、年度内での目標達成を目指したいと考えている。看護科の実習は感染症の影響で校内での実施となった。本校教員が、視聴覚教材の利用する他、生徒相互で保育実習のシミュレーションを行うなど多くの工夫を凝らし無事終えることができた。

< 2 学年 >

・新型コロナウイルス感染拡大の影響で今年度最大行事である修学旅行を縮小・変更したが、感染に注意を払い、規則を守り責任ある行動を示した。課題研究にも積極的に取り組んでいた。

・難関大ガイダンスに81名が参加。  
・学年集会で、模試の結果分析や3年0学期の講話を行い、学習意識改善を図った。

・学力の上位層に英数国の各教科から対策講座を行った。

・学習習慣の定着は概ね図れてきた。普通科理数科の平日家庭学習時間2時間以上は5月71.1%9月43.4%、休日4時間以上は5月58.1%9月34%と減少。5月は学校休校で例年より多い。

・進路協議会では各自の進路選択について検討し適切な文理選択を行った。

◎

※

※

◎

※

※

※

### <3学年>

#### 【活動指標】

- ・大学入学共通テスト導入年に加え、新型コロナウイルス対策に追われ大変な状況下であるが、各教科担当や分掌の協力を得て、生徒一人ひとりの進路実現を援助できるよう細やかな情報提供、親身の個人面談、意気高揚の為の学年集会を実施します。また学年通信、「発見！大学レポート」に加え、掲示物や主任文庫の活用による積極的な情報提供に努めます。
- ・長引く臨時休業中も適切な課題を提供し、自学をサポートする授業動画の配信や紹介、また課題のオンライン配信や英作文個別添削など厳しい現状の中で、できることを最大限に活用して教育活動の継続・維持に努力しています。
- ・将来に向けて、地元志向、内向き志向に留まらずに幅広い視野に立って、専門分野への関心を高め、進路をその探究に直結できるよう情報提供することで、研究分野の確立を生徒に求めます。
- ・現状では不確定であるが、衛生看護科の6月、9月、10月の臨地実習を充実させ、各自の進路具現化に向けて、事前、事後の指導を計画的に実施します。また教科の実力向上を見据えて、細やかな指導を続けます。

#### 【成果指標】

- ・授業や課外授業などで思考力、判断力の伸長に努め、昨年から進めて実施してきた校内外での研修・活動を通して身につけた知見と向上心を持った地域社会のリーダーを目指すべくその資質を身につかせます。
- ・具体的な成果指標として、本校生徒の多くが志望している国公立大学の合格者が普通科、理数科の卒業生数の5割以上が目標です。
- ・衛生看護科生徒は、実施可能かは未定ですが、座学での充実に加え臨地実習中の生徒の様子や実習日誌、レポートの提出状況から職業観の涵養と進路意識の高揚を促します。

### <理数科>

#### 【活動指標】

- ・文部科学省より指定のSSH事業と連携しながら、継続的な教科指導や課題研究活動、校内外での研修活動などへの取組を通して、理系キャリア教育の充実を図ります。

### <3学年>

◎

- ・大学入学共通テスト導入に関わり、出願や日程など細かくその概要を説明し、意識の高揚に努めてきた。2学期に「大学レポート」は三号まで発行し、通信や毎日の激励ホワイトボードなどは継続した。
  - ・県下でもいち早くオンライン配信に積極的に取り組み、全教科で指導し、5～20本の動画配信と、同時に添削指導講座も実施した。
  - ・様々な志望を丁寧に聞き取り、AO入試や推薦入試のサポートに努め、学校推薦型（共通テストなし）は、6/10人が合格し、学校推薦型（共通テストあり）は、24/48人が合格した。
  - ・コロナ禍が収束しない中、衛生看護科はそれぞれが準備して実習に臨んだ。期間の短縮や型式が変化した実習にも臨機応変に対応できた。
  - ・粘り強い演習と丁寧な指導を重ねて初の共通テスト模試では経年比較しても遜色ない状況まで伸長が見られたが、本試験で生徒は新傾向に苦勞したようである。
  - ・国公立大学推薦入試は、合格率6割を超え、例年になく幸先良いスタートを切った。
  - ・コロナ禍での臨地実習を終え、「看護の難しさを実感した」、「看護者としての責任感の重要性を理解できた」、「人間的存在として患者様を理解しなければならぬ」など専門職者としての自覚を持って自律的に考える傾向になってきた。
- 看護の難しさや看護者としての責任感の重要性などは実際に臨地で患者様に相対し、看護を実践することで初めて気がつくことが多いと思われる。しかし、気づきは体験内容や個人差の影響も大きいため、実習目的やその時の生徒の個々状態に合わせた指導を考慮して指導体制を組み立ていく必要がある。

### <理数科>

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、予定していた理数科縦割りガイダンス、理数科合宿、秋の理数科校外研修（1年NTN先端技術研究所・2年四日市オキシトン、1年名古屋工業大学）

### 【成果指標】

- ・授業や校内外の研修における理数科生徒の満足度の肯定的評 価が80%以上になることを目指します。

### <看護科>

- ・看護師国家試験合格 100%を目標とし、思考力や判断力を養います。
- ・看護師としての社会人基礎力を養うために、社会情勢に目を向け、関心を持って学ぶ姿勢を養います。
- ・自主的、主体的な学習習慣を確立し、学び続ける姿勢を育て学力の向上・定着を図ります。

### 【活動指標】

- ・日常から思考や判断プロセスを問うような学習課題を提示し、単純想起型の知識から、自らの思考の基で判断する機会を各科目から体験します。
- ・産業教育における事業、臨地実習施設行事、ボランティア行事等、積極的に参加し、現場体験に基づく気づき等を大切にします。
- ・専門領域の充実と、職業観育成のために外部講師を招いてキャリア教育の充実を図ります。

### 【成果指標】

- ・学習課題の充実を図り、多方面からの情報収集、科学的な根拠づけ、倫理的配慮に基づいた内容であるかを評価します。
- ・学習課題の充実を図り、期日厳守生徒の割合が100%になることを目指します。
- ・行事の参加後は必ず振り返りシートを記入し、体験をもとに次なる課題を見いだせるようにします。

### <総務部>

### 【活動指標】

- ・人権便りの年5回以上の発行、人権講演会や人権LHRの実施を通して、①差別に気づく豊かな心を育みます。②人権問題を仲間と共に学び、お互いの気持ちを理解し合い、認め合えるようにします。③問題解決やよりよい方向を目指して、協調性と積極性を持って取り組めるようにします。

### 【成果指標】

が残念ながらすべて中止となった。代替として、校内において理数科課題研究中間発表会、1・2年合同科学課題演習などを実施した。それぞれのアンケートにおいて、生徒の満足度は肯定的評価が90%を超えている。また、1・2年生の金曜0限授業や2年生の課題研究において、進路実現のための学力の伸長や理系キャリア教育の充実を図った。校外においては理数科の生徒が三重科学オリンピック出場、名大みらいにおいて1名が最終ステージ選出、日本数学コンクールで優秀賞(2位)、日本生物学オリンピック銀賞の結果を収めた。

### <看護科>

・臨地実習の中止や大幅な変更に伴い、現場での直接の学びや社会に触れる機会は減少したが、メディアを通じて、医療を身近に捉え、考える機会を生徒一人一人が持ち、自主的な学びにつながった。

・行事等にも規制があったが、実施できた文化祭や高校入門講座等では看護科全学年が自主的に、社会の現状に触れた内容発表に取り組んだ。

・外部講師の協力を受け、リモートでの授業を充実させていただき、学習の充実を図れた。

・ナースセンターの協力を受け、リモート講義を実施し、臨地実習の代替をおこなった。講義内容は、「看護の動向・現状と今後」「これからの医療体制のあり方」「これから働くみなさんへ」であった。現場を身近に感じることができ、これからの自身のあり方の指標となる貴重な機会を得た。なお、この取組については、文部科学省による臨地実習実施状況アンケート結果報告のなかで紹介された。

### <総務部>

全校生徒に向けての人権講演会を1、2年生は体育館で聴講、3年生、看護科は教室でのリモート視聴という形式で11月に実施した。

部落差別だけでなく、いじめ、SNSの利用など多岐にわたって講演をいただいた。

3学年の人権LHRを7月に、1、2

◎

◎

- ・人権講演会，人権ロングホームルーム後の感想，アンケートにおいて、肯定的な意見，感想などが95%以上を目指します。

### <生徒指導部>

- ・心身の成長期にふさわしい基本的な生活習慣を確立させます。また、自主，自律した社会生活が送れるよう高校在学中に指導するとともに、交通事故の防止、社会や時代の変化に伴う様々なリスクに対する危機管理能力を身につけさせます。

#### 【活動指標】

- ・平常授業時には毎朝8時から校門（正門、北門）にて挨拶指導、服装指導、遅刻指導、自転車通学生の安全指導を行い、社会や学校の規則、マナーを守る習慣を身につけさせます。
- ・校内では挨拶の励行、身だしなみを整える「Formal Week」を月に1回（5日間）実施し、品格を備えた桑高生を育みます。同時に、通学路にて交通安全指導を行い交通事故防止や交通ルールを厳守するよう指導を行います。そして年3回全職員体制で頭髪服装指導を実施し、身だしなみを整える指導を行います。
- ・月間生活努力目標を設定し、生活の基本様式（身だしなみ、正しい規範意識、挨拶、いじめ防止など）を身につけさせ集団の中で生活できる能力を育てます。また全教員で共通理解を持って一貫した生徒指導を行います。  
4月、11月はいじめ防止強化月間とし、ピンク色の物を職員及び生徒が身につけていじめ防止を啓発していきます。
- ・いじめアンケートを年3回（7月，12月，3月）実施して、いじめの実態把握に努めます。

#### 【成果指標】

- ・式典や集会等はもちろんのこと、日常的に身だしなみ（正しい制服の着こなし）を整えさせることを最大の目標とします。特に女子生徒のスカート丈においては適正な長さ（膝の真ん中より下）での着用を定着させることを重点課題とします。
- ・制服検討委員会を立ち上げて、今後の桑名高校の制服について意見集約と議論を行い、新制服について検討を進めます。

学年の人権LHRを1月に実施した。  
1，2年生の人権LHRについての肯定的な感想が約97パーセントであった。  
人権だよりについては3回発行した。

### <生徒指導部>

- ・始業式や終業式の際に各学期で気になった改善点を話し、注意を促した。
- ・平常授業時には、ほぼ毎朝、校門（正門、北門）に立ち、生徒への声かけを数多く行った。それに加え「Formal Week」で挨拶指導や服装指導を根気よく継続したこともあり、挨拶を大きな声でできる生徒が昨年より増え、正しい制服の着こなしができるようになった。

6月、11月のいじめ防止月間では生活委員、生徒自治会役員、教職員共にピンク色の物を身につけていじめ防止啓発を行った。

遅刻寸前の生徒については「カウントダウン指導」を大きな声で行うことにより、校門を通過してから教室まで走って行く生徒が増えた。自転車の乗り方については多くの課題はあるが、安全に乗ろうとする気持ちが出始めている。

- ・全職員体制で年3回実施している頭髪服装指導では、軽微な違反（爪の伸びすぎ、校章やスカーフ忘れ等）はあるものの、パーマや染色といった頭髪加工やピアスといった継続指導が必要な生徒は年間1～2名と減少傾向。
- ・昨年度に引き続き重点的に行った正しい制服の着こなし指導については、女子生徒のスカート丈がほぼ校則通りになりつつある。この状況を維持するため、生徒指導部が主体となって生徒自身が正しい制服の着こなしを自らできるよう今後も指導していく。

・月間生活努力目標の設定については時期や生徒の実情に応じた適切な設定、発信ができた。生徒全員にどこまで周知できたか明確ではないものの少数でも意識し行動する生徒がいたことは確かである。また教職員にも明確な目標を伝え、意識し行動することで生徒指導の意識が高まり良い効果をもたらした。

以下は、今年度1月までの月間努力目標である。

**4月** いじめ防止強化月間  
「みつめようスマホじゃなくて人の心」

**5月** 新型コロナウイルス感染拡大防止  
「鯉のぼり泳ぐ力は向かい風」

**6月** いじめ防止強化月間（再）  
「みんなで考えようみんなに伝えよう」

**7月** 交通事故防止月間  
「交差点 止まる習慣 事故は瞬間」

**8月** 規則正しい生活を送ろう  
「早寝 早起き 朝ご飯」

**9月** 大きな声で自分から挨拶をしよう  
「挨拶は桑高の未来」

**10月** スマートフォンの使用時間を減らそう  
「画面見ないで顔面見よう」

**11月** いじめ防止強化月間 ※ピンク色の物を身につけて啓発拡大  
「思いやり助け合いが絆生む」

**12月** 交通事故防止  
①もしかして（危険予測）  
②とまる（一時停止）  
③みる（安全確認）  
④まつ（安全確保）  
⑤たしかめる（再確認）

**1月** 年始め大きな声で挨拶を「挨拶は桑高の未来」

**<進路指導部>**

- ・新型コロナウイルス流行の中で、内容などを精査しながら進路情報に提供し、生徒や保護者の不安感を解消できるように努めます。
- ・キャリアデザインに基づいたコース選択や志望校の決定のための取り組みを行います。
- ・大学入試共通テスト(以下「新テスト」)の導入など受験環境の変化の対応に向けた体制づくりを行います。

**【活動指標】**

- ・校内大学説明会の充実を図ります。
- ・キャリア教育の視点からの進路指導を行います。
- ・難関大の中でも希望者が多い名古屋大学への進学対策講座「名大チャレンジサポート」を実施します。また、今年度は3年生で医学部志望が多いことから、「医進対策講座」の充実をはかります。
- ・受験環境の変化についての情報を教職員や保護者に整理して伝えるとともに、変化の対応に向けた体制を整備します。

**<進路指導部>**

- ・新テストや新型コロナウイルスにもなう入試の変更点は、進路ガイダンスや全体保護者会で内容を精査しながら、わかりやすく伝えることができた。 ◎
- ・キャリアデザインに基づいた取り組みについては、休校期間があったことや、外部講師を招きにくい環境の中で、Zoomなどのコンテンツを使うなどして工夫して行なうことができた。3年生の名大チャレンジサポート、医進対策、1・2年の難関大チャレンジサポートなど「志」をもたせる取り組みもさまざまな制約の中で何とか実施することができた。 ◎
- ・オープンキャンパスを利用した進路研究に関しては、オンラインで実施している大学を生徒たちに周知しているが、効果については検証まで至っていない。



- ・新型コロナウイルス流行により中止になった校内行事やオープンキャンパスに代わる取り組みを行うとともに、情報もしっかり精査して生徒・教師・保護者に提供できるように努めます。

**【成果指標】**

- ・生徒アンケート結果において「満足」への回答が7割以上。
- ・国公立大学現役合格者数が、普通科，理数科卒業者数の4割以上にします。→ 過去7年連続達成。
- ・名古屋大学合格者数が現浪合わせて15名以上。
- ・難関国立10大学と医学部の現役・浪人合格数が20名以上。(昨年度17名)
- ・3年生4月調査の第1志望校に合格の生徒が普通科・理数科卒業生数の2割以上になるように努めます。とくに難関大や医学部志望者は、実現するために粘り強く(浪人覚悟も視野に入れて)努力する姿勢を養います。
- ・今年実施の新テストに向けて、読解力，分析力，判断力を養成するための授業実践例などの情報を提供します。

**<定時制 学習指導>**

- ・社会の変化に対応した「主体的な学び」を実現するための教育活動に取り組みます。
- ・キャリア教育を視野に入れた「総合的な学習の時間」の内容の充実を図ることで、生徒間の対話を深め、「気づき」を促進します。また、限られた時間の中で様々な体験・経験をすることで、自己肯定感の涵養、生徒の持つ思考力・発信力の向上、協調性とリーダーシップの育成に取り組みます。

**【活動指標】**

- 1年生：基本的生活習慣の確立
- 2年生：進路実現に向けて勤労と学業の両立
- 3年生：進路実現に向けて自己啓発
- 4年生：コミュニケーション能力の向上と進路実現に向けて自身で行動する力の育成

- ・1，2年において、国語，数学，英語の3教科で習熟度に応じた特別授業を実施し、基礎学力の定着と向上を図り、外国籍の生徒についても日本語指導を踏まえ取り組みます。

**【成果指標】**

- ・生徒満足度80%を目指します。
- ・基礎学力の定着について、D3ゾーンからの脱出を目指します。

**【活動指標】**

- ・生徒の「生きる力」醸成のために防災・環境・安全・健康・人権等に関する総合学習を年間35時間以上実施します。

- ・今年度の進路結果は、国公立大に関しては172名(卒業人数の54.4%)の合格者を出し、当初目標の卒業人数の4割を超えることができた。また、京都大、名古屋大などの国立難関10大学で昨年度を上回る合格者を出すことができた。

- ・衛生看護(専攻)科においては、今年度実施された看護師国家試験に全員合格し、衛生看護科の目標を達成した。

**<定時制 学習指導>**

生徒の基礎学力の定着および向上を目指して、PDCAのサイクルを大切に、「分かる授業」の取組を行った。学期に1回授業研究週間を設け、他の教員の授業を見学し、自己の授業を改善する機会とした。

昨年度同様、「学びの基礎学力診断テスト」を5教科(各30分間)で実施した。結果(平均点/100点)は以下のとおりである。全学年分母が小さく個人の点数に大きく影響を受けるため一概に比較できないが、全体的に基礎学力の定着や向上が喫緊の課題であると共に、4年間で学年毎に生徒に付けさせたい力を各教科明確にし、その目標達成に向けて丁寧な指導が必要である。

学年	国語	社会	数学	理科	英語
1年	18.9	28	41	29	46
2年	26.1	45	50	32	41
3年	25.6	43	42	35	43
4年	15	43	43	27	43

総学、総探については例年に比べ、新型コロナウイルス感染症拡大対策のため、中止や変更を余儀なくされたが、年間31時間実施することができた。

また、今年度は学年目標を設定し、学年全体で取り組んだ。( )の数字は2学期末の学校生活アンケートで①できた②だいたいできた③ほとんどできなかった④全くできなかった、のうち

◎

◎

◎

◎

**【成果指標】**

- ・生徒満足度について4段階でA、B合わせて90%以上を目指します。

**<定時制 生徒指導>**

- ・心身の成長期にふさわしい基本的生活習慣の確立を目指し、自律した生活が送れるように指導を行います。

**【活動指標】**

- ・無断遅刻、無断欠席をなくし、生徒指導案件5件以下を目指します。
- ・挨拶運動、誰もが気持ちよく挨拶できる雰囲気づくりを確立します。
- ・校則はもちろん、社会のルールを厳守するよう指導を行います。
- ・生活全体を指導できるよう努めます。

**【成果指標】**

- ・5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を徹底的に指導します。
- ・ABCを確実にできるように指導します。
  - A 当たり前のこと
  - B 馬鹿にしないで
  - C ちゃんとする
- ・連絡先など各諸事情の報告を徹底指導します。

①と②を合わせた割合を%で表したものである。

(1 学年)

1. 相手のことを考えて行動する。(85.7)
2. 欠席・遅刻など何かあったら連絡する。(100)
3. 身の周りの整理・整頓をする。(71.4)

(2 学年)

1. 休まずにきちんと授業を受ける。(50)
2. 冷静に自分の気持ちを見つめる。(58.3)
3. 欠席・遅刻のときは必ず学校に連絡する。(66.7)

(3 学年)

1. 誰かに会ったら、自分から元気に挨拶をする。(75)
2. 困っている人がいたら、積極的に助けてあげる。(75)
3. 「ありがとう」と「ごめんね」を、心から言う。(92)

(4 学年)

1. 誰にでも挨拶をする。(100)
2. 期限をきちんと守る。(80)
3. ほう・れん・そうを徹底する。(80)

**<定時制 生徒指導>**

昨年度からの継続的な指導(ある一定の回数遅刻をした場合個人的に指導を行う)の結果、遅刻は昨年度より年間77件程減った。しかし、依然として欠席や遅刻を繰り返す生徒がいるので引き続き丁寧な指導を行っていききたい。

<定時制 進路指導>

【活動指標】

- ・生徒の実態に応じた進路指導を実施し、労働に対する意欲を持たせるとともに、主体的に進路を選択できる力を身につけさせます。
- ・進路実現に向けたキャリア教育を実施します。
- ・自分探しによる新規開拓を行わせます。
- ・外国籍生徒の就労支援を行います。
- ・大学専門学校等への進学指導を行います。

【成果指標】

- ・生徒の有職率80%を目指します。
- ・卒業後の進路未定者を0人にします。

<定時制 進路指導>

キャリア教育については、パネルディスカッション（上級学校、11月）や社会人マナー講習会（2月）を全学年対象に実施し、生徒は自己の進路について考えることができた。新型コロナウイルス感染症拡大予防対策のため、企業見学を中止せざるをえなかったのは残念であった。

生徒の有職率（アルバイト）については、以下のとおりである。

	在籍数	有職数	比率(%)
1年生	7	3	42.9
2年生	12	9	75
3年生	12	5	41.7
4年生	5	5	100
全体	36	22	61.1

進路指導については、生徒一人ひとりの希望や適性を把握し、模擬面接等の就職試験対策を丁寧に行うことができた。自分の進路について直前になって迷うことがないように、1年生の段階からさらに具体的に考える機会を作っていく必要がある。進路の内訳については以下のとおりである。

就職	3	進学	0	未定	2
----	---	----	---	----	---

やはり新型コロナウイルス感染症拡大の影響があったためか、二次募集の求人が昨年度よりも少なく、11月以降の就職活動が非常に困難な状況となっているため、現段階ではまだ就職が決まっていない生徒もいる。

改善課題

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、教育環境や行事予定の変更を余儀なくされた。今後もこの状況が続くと想定される。そのため種々の制約をうけるなかで、「カリキュラム・マネジメント」を念頭におき、「目指す学校像」、「育みたい生徒像」、「ありたい教職員像」の実現に向けて、できることを一つ一つ検討しながら取り組む必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p><b>重点①</b> 組織力ある学校づくり</p> <p><b>重点②</b> 開かれた学校づくり</p> <p><b>重点③</b> 指導に専念できる環境づくり</p>	<p><b>&lt;総務部&gt;</b></p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループウェアの活用を呼びかけ、朝の打ち合わせや会議時間の短縮に取り組みます。</li> <li>企画委員会を通して分掌間の連携を図ります。</li> <li>同僚と相談しながら仕事を進めていける職場づくりに取り組みます。</li> <li>マネジメント委員会と連携をとりながら、学校行事の見直しや業務内容の精選を図り、勤務時間の縮減・教育内容の充実につながるよう取り組みます。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝の打ち合わせの全体連絡が8時25分までに終わるようにします。</li> <li>総務部が関わる会議が1時間以内に終了するようにします。</li> <li>職員満足度調査の人間関係の項目、「職員間の対話は活発に行われていますか」「同僚と相談しながら仕事を進めていく体制はできていますか」の数値3.0以上を目指します。</li> <li>職員満足度調査の職場環境の項目、「仕事が精査されてきたという実感はありますか」の数値2.5、「定時退校日に定時退校できましたか」の数値3.0以上を目指します。</li> </ul> <p><b>&lt;AKP&gt;</b> (AKP=「明るい桑名高校プロジェクト」委員会より)</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員間のコミュニケーションをより活発にし、目指す学校像実現に向けたアイデア、及び業務内容の精査に関する意見を出し合える環境をつくることで、仕事を楽しく感じられる職員連携を構築し、多忙感の解消を目指します。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員満足度調査の重点項目、「職員間の対話は活発に行われていますか。」の数値3.0以上を目指します。</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションを活発にするような企画運営を行い、多忙感や負担感を解消します。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末に行う職員満足度調査において、平均数値が2.9以上になることを目指します。</li> </ul>	<p><b>&lt;総務部&gt;</b></p> <p>グループウェアの活用は、昨年度より進み、朝の打ち合わせ、会議時間の短縮にもつながっている。職員会議では提案にかかる時間を事項書に記載するなど工夫を加え、概ね1時間程度に収まっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度はコロナ禍による行事の日程・内容の変更見直しなどに伴い会議の回数も増えており、対話の必要性を感じる事が多い。仕事を精査し、業務の多忙化解消を図ることが難しい一年であった。</li> </ul> <p><b>&lt;総務部&gt;・&lt;AKP&gt;合同</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革の一環として、仕事の精査を通して目指した。</li> <li>職員満足度調査結果(2月時点)数値は4点満点で( )は昨年度</li> <li>①自由に意見を言えるような雰囲気はありますか。2.6(2.5)</li> <li>②職員間の対話は活発に行われていますか。2.7(2.5)</li> <li>③同僚と相談しながら仕事を進めていく体制はできていますか。2.9(2.8)</li> <li>④仕事が精査されてきたという実感はありますか。2.0</li> <li>⑤定時退校日に定時退校できましたか。2.6</li> <li>⑥職員満足度調査の平均数値今年度2.67(昨年度2.66)</li> </ul> <p>・今年度は企画できませんでした。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p>

<事務部>

【活動指標】

- ・生徒や教職員が安全で快適な学校生活を送れるよう、施設整備等の点検・改修を行い、学習環境の整備を行います。
- ・予算が伴う要望事項に対して迅速かつ丁寧に対応することにより、学校の活性化を支援します。
- ・コンプライアンスを徹底するとともに、チェック機能の強化を図ることにより、適正な事務処理を行います。
- ・新型コロナウイルス感染予防対策を的確に遂行します。
- ・働き方改革につながる取組を実施します。

【成果指標】

- ・消防設備等の点検を行い必要な補修を行います。
- ・老朽化している本校校舎の長寿命化改修工事を実施します。
- ・校内の予算要望項目を広く聴き取り、対応します。
- ・毎週事務室の打合せを実施し、業務の進捗状況等情報共有を行うとともに、コンプライアンス研修を年3回実施します。
- ・校内の消毒作業を毎日実施します。
- ・年休を前年度以上に取得し、時間外勤務を前年度未満とします。

<全体>

【活動指標】

- ・県立高等学校活性化計画に基づき「主体的で深い学びに協働して取り組む教育の充実」「カリキュラム・マネジメントを取り入れた学校教育の改善」「ICT活用による学びの充実」「大学等と連携した教育の推進」「定時制教育の充実」等に組織的・継続的に取り組みます。

【成果指標】

- ・生徒アンケートの「授業理解」「進路指導の充実」「教員との対話」の肯定的評価を80%以上とします。
- ・グローバル人材育成に向けて「ユネスコスクール」への加盟申請を引き続き行います。

【活動指標】（ ）内は前年度実績

- ・教職員が働きやすい環境づくりを推進するため、総勤務時間縮減の取組として、以下の3項目に取り組

<事務部>

- ・老朽化や不具合が発生した施設の改修、法定点検等を速やかに行った。
- ・予算化が必要な事項について、県教委と速やかに協議を行った。
- ・内部統制リスクマネジメントシートに沿って、チェックを確実に行った。
- ・休みやすい雰囲気づくりのため、休暇取得の声掛けを随時行った。

- ・必要な点検、補修を行った。
- ・本年度計画されている改修工事を実施した。
- ・事務室の打合せを毎週実施し、課題の共有を行った。
- ・校内の消毒作業を毎日実施した。

<全体>

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止にかかる主な対応として、以下の取組をおこなった。

- ①健康管理アプリを開発し、生徒および教職員の健康管理体制を構築した。
- ②臨時休業期間中は、学年別分散登校・動画配信やライブ授業・時差登校やライト授業等を実施し、休業による授業の遅れを解消した。
- ③新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じつつ体育祭を実施し、桑高祭は外部施設を利用して実施したほか、いのちの講演会や110周年記念講演会は体育館での実施の様子を教室にライブ配信するなど各種学校行事等の実施形態を工夫した。

- ・生徒アンケート結果（1月末）

（ ）は前年度

授業理解	85.5% (85.0%)
------	---------------

	<p>みます。①定時退校日を月1日実施し達成率75%以上(74.4%)、②部活動休養日を週1日以上設定し設定率98.5%以上(98%)、③1時間以内に終了する会議75%以上(70.4%)を目指します。</p> <p><b>【成果指標】</b> ( )内は前年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外労働時間を5%程度の削減目指し、平均23時間/月とします。(平均25.0時間/月)</li> <li>・休暇取得日数の一人あたり年間平均日数が20日以上を目指します。(昨年:21.3日、一昨年17.2日)</li> <li>・年360時間を超える時間外労働者数0人、月45時間を超える時間外労働者の延べ人数0人を目指します。</li> </ul>	<p><b>進路指導の充実</b> 84.6% (85.0%)  <b>教員との対話</b> 82.8% (84.3%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ユネスコスクール」への加盟申請にかかる Application form 新項目のについて、前年度のものを大幅に修正した。現在協議中である。</li> <li>・総勤務時間縮減の取組成 (1月末)</li> </ul> <p>( )は前年度</p> <p>①定時退校日を月1回実施し、年間平均定時退校率は67% (73.3%)  ②部活動休養日週1回以上の年間設定率は98.7% (98.2%)  ③1時間以内に終了する会議の年間割合は64.4% (70.5%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外労働時間の月平均 (1月末)</li> </ul> <p>30年度 28時間00分/月  R1年度 26時間18分/月  R2年度 20時間48分/月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休暇取得日数</li> </ul> <p>30年度 14.4日 (4~12月)  R1年度 13.4日 (4~12月)  R2年度 12.7日 (4~1月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年360時間を超える時間外労働の延べ人数 (1月末)は22人</li> <li>・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 (1月末)は130人</li> </ul>	◎
--	---	---	---

改善課題

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、教育環境や行事予定の変更を余儀なくされた。この事態に対応するため、例年より業務が増加した。今後はこの経験を踏まえつつ、教育活動の充実を推進するなかで多忙化の現状から抜け出すために業務内容の精選等をおこない、教職員が「働きやすさ」を実感できるようにすることが課題である。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桑名高校には既に多くの芽が育っているので、もっと大きく実らせることが可能と思われる。今後の発展の方向としてICTの活用、外部との連携、学習者自身の参加協力を進めてほしい。</li> <li>・公立高校でありながら生徒個々に手厚く指導されている事に感銘を受けている。中学生だけでなく保護者にも桑名高校の魅力が伝わる方策について検討されることを期待したい。</li> <li>・教職員の業務精選や多忙化解消のために課題を整理し、業務のICT化も含めて今後の取組に期待したい。</li> <li>・今後も種々の危機に対して迅速な対応がとれるよう、危機管理体制の確認と随時見直しをされることを期待したい。</li> </ul>
----------------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	生徒が様々なことに興味関心抱くよう支援するほか、グローバルに活躍する人材を育てるため、ICTを活用して外部と連携した学習の充実を図り、生徒が主体的に学ぶ取組を進めていく。
学校運営についての改善策	桑名高校の魅力が社会に広く伝わるために情報発信の方法を工夫する。また、教職員の多忙化解消のために、業務のICT化等を含めた業務の精選を進めていく。